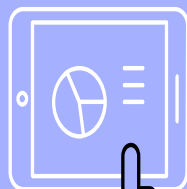
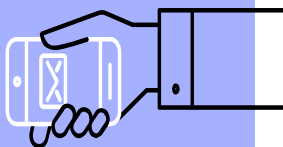
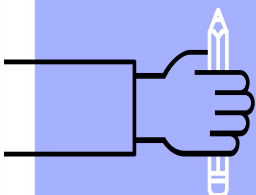


5月22日, 5月27日開催FDセミナー

「メディア授業における 情報保障と合理的配慮」

Q&A



Q: メディア授業における情報のスリム化について
は何かよいアイデアがありますか?

データダイエット

- 1 オンライン授業は通信量(データ量)が膨大な通信回線容量は必要となる教育の障がい者への合理的配慮等必須の分野に。
- 2 オンライン授業は通信量(データ量)が膨大な通信回線容量は必要となる教育の障がい者への合理的配慮等必須の分野に。
- 3 授業の全てをライブにする必要はありません。
- 4 ネットワークが安定している時間を有効に活用しましょう。
- 5 学生の主体的な学びにネットは必ずしも必要ではありません。

通信量に配慮した授業の実施・設計手法五カ条

必要な情報は事前にダウンロードして授業中に再生する

必要な情報は事前にダウンロードして授業中に再生する

必要な情報は事前にダウンロードして授業中に再生する

必要な情報は事前にダウンロードして授業中に再生する

必要な情報は事前にダウンロードして授業中に再生する

A: 国立情報学研究所が「データダイエットへの協力をお願い：遠隔授業を主催される先生方へ」として提言をしていますのでご参照ください。

<https://www.nii.ac.jp/event/other/decs/tips.html>



Q: 自宅や寮など、他の人と一緒に生活をしている環境により、声や音が気になってメディア授業に集中できない学生にはどのような対応ができますか?

A: 非同期型の授業では、視聴する時間や部屋について工夫できるかと思えます。また、市販のノイズキャンセリングイヤホンを購入するという方法もあります。

合理的配慮の対象となる学生には、学生のニーズに合わせて、キャンパスライフ健康支援センターのノイズキャンセリングイヤホンを貸し出したり、学内の受講場所を提供するなどの配慮を検討することができます。



Q: メディア授業において聴覚障がい学生とのグループワークを実施する場合、グループ内の学生全員がチャットを用いるということはよいのでしょうか?

A: 本人やグループ内の学生の上承を得ることができれば、チャットでグループワークをするのも良いと思えます。

グループワークの場合、司会者を立てる・人数を少なくする等の配慮があると、障がいの有無に関わらず参加者は発言のタイミングがわかりやすくなります。



Q：スライド等、メディア授業における資料作成について、精神障がい者が受け入れやすい／受け入れにくいデザインはありますか？

A：精神障がいは、見る、読む、聞くといった能力に障害はないので、資料作成においてはユニバーサルデザインで対応できます。

精神障がいの学生の精神状態には、孤立した環境、長時間のメディア視聴、メール等の文字のやりとり、LMSの使用方法などから生じる誤解や不安などが影響を与えます。そのため、授業時間や課題量を調整したり、定期的に連絡を取って状況を把握するなどの対応が大切になります。

この他にも、新たな課題が出てきましたら、教職員の皆さまとも共有させていただきたいと思います。



Q：その他メディア授業を実施することで気を付けておいた方がよいことがあれば教えてください

A①：目の疲れから頭痛や肩こりを生じる学生も出始めています。視覚、聴覚に障がいのある学生は更に負担がかかっています。適宜休憩を取りながら授業や課題に取り組むように声かけをしてみてください。授業の前後やブレイクタイムで、下記ページにあるような眼精疲労対策を全員でする時間を設けてもよいかもしれませんね。

また、以下のHPを参考にしたスライドを作成しました。よろしければご活用ください。

<眼精疲労を抑えるための正しいパソコンの使い方と対処法>

◎メニコンより

<https://www.menicon.co.jp/whats/column/detail2.html>

◎ろう・難聴学生が「目」の健康を保つための6つのポイント
- オンライン授業の受講に向けて - 松崎丈note

<https://note.com/matsuzakijo/n/n0ca76c69a28e>



ろう・難聴学生が目の健康を保つ6つのポイント (松崎丈note, 森改変)

<p>ディスプレイと適切な距離を保つ</p> <p>タブレットやPCは40cm以上（腕を伸ばして届くぐらいの距離）スマホは30cm以上離す。</p>	<p>文字列のウィンドウの幅を広くする</p> <p>ディスプレイは大きい方が目に負担が少ない。スマホの場合は横向きに。</p>	<p>目に優しい環境を作る</p> <p>部屋の照明は間接照明。画面は低輝度にし、ブルーライトカットフィルムを貼る。</p>
<p>デジタルデバイスから離れる時間をとる</p> <p>1時間に10分程度の目の休憩を挟む。お茶を飲む、外を見る、目のマッサージ、顔を温める、眼球運動等</p>	<p>音声認識アプリや文字起こし資料と上手につきあう</p> <p>日本語の話しことば固有の特徴を抑え、数行分の認識結果を俯瞰し、意味や意図を捉えてみる等認知的に負担の少ない読み方を工夫する</p>	<p>食事や生活習慣を見直す</p> <p>ビタミンB群の摂取。十分な睡眠と規則正しい生活リズム。寝る1,2時間前にはデジタルデバイスを見ない。</p>

メディア授業における目の健康を保つ6つのポイント (松崎丈note, 森改変)

<p>ディスプレイと適切な距離を保つ</p> <p>タブレットやPCは40cm以上（腕を伸ばして届くぐらいの距離）スマホは30cm以上離す。</p>	<p>文字列のウィンドウの幅を広くする</p> <p>ディスプレイは大きい方が目に負担が少ない。スマホの場合は横向きに。</p>	<p>目に優しい環境を作る</p> <p>部屋の照明は間接照明。画面は低輝度にし、ブルーライトカットフィルムを貼る。</p>
<p>デジタルデバイスから離れる時間をとる</p> <p>1時間に10分程度の目の休憩を挟む。</p>	<p>目をいたわる習慣をつける</p> <p>目の周りをマッサージする、眼球体操をする（目を見開いて眼球を大きく回す。右回りと左回りをそれぞれ数回。その後目を閉じて休む）、顔を温める等。</p>	<p>食事や生活習慣を見直す</p> <p>ビタミンB群の摂取。十分な睡眠と規則正しい生活リズム。寝る1,2時間前にはデジタルデバイスを見ない等。</p>

Q：その他メディア授業を実施することで気を付けておいた方がよいことがあれば教えてください

A②：<UDフォントについて>

× 明朝体、教科書体⇒○ UDデジタル教科書体

○ 丸ゴシック体、メイリオ

英数字はHelvetica、ArialおよびVerdanaが良いとも言われています。基本的には、1文字内に太さが違う線が用いられていると「認識しにくい」とされています。

また、太字のフォントを使用する場合には、フォントサイズが小さいと逆に見えにくくなります。フォントサイズと太さのバランスに気をつけましょう。

どのフォントが適切であるかは、障がいの種類やその程度によって変わり、作成者の好みも関係します。見やすいフォントについて、学生と検討してもよいかと思えます。

Q：新入生の懇談等で配布できる資料がありますか？

A：『キャンパスライフ健康支援センターでできること』というリーフレットが下記ページに掲載されています。

<https://hacc.osaka-u.ac.jp/ja/download/>

キャンパスライフ健康支援センターでは学生生活上の困難を解決するための支援を行っています。アクセシビリティ支援（障がい学生支援）に限らず、心や体について相談できる窓口としてご紹介ください。

新入生には入学時に『アクセシビリティ支援 学生用かんたんハンドブック』というリーフレットを配布し、アクセシビリティ支援室について紹介しています。

前掲の『メディア授業における目の健康を保つ6つのポイント』のスライドもよろしければご活用ください。

A②：<色について>

講義スライドでは、文章の強調部分は色を用いず、太字や下線を用いることを提案しています。

より詳しいカラーユニバーサルデザインについては、東京都が出している、下記（『東京都カラーユニバーサルデザインガイドライン』）をご参照ください。

<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kiban/machizukuri/kanren/color.files/colorudguideline.pdf>

Q：その他学生に紹介できるような、おすすめのツールがあれば教えてください

A：

<音声認識アプリ>

◎ UDトーク iOS版・Android版

<https://udtalk.jp>

◎ 音声文字変換（Live Transcribe）Android版

<感覚過敏のある学生表明用 教員声かけ用
Zoom背景画像>

◎ 感覚過敏研究所作成

<https://kabin.life/archives/1609>



Q：今回の研修はFDポイントが付きますか？

A：今回のFDセミナーに関しては、新任教員研修制度に係る研修プログラムのFDポイント加算対象として、事後申請が可能となり、現在申請を行っているところです。承認されましたら、後日、FDポイントが付与されますので、セミナーの参加者ご希望の方は、次頁の連絡先(アセス支援室)までお申し出ください。



その他、学生への教育的/合理的配慮についてご質問やお困りのことがございましたら下記連絡先までご一報ください。

キャンパスライフ健康支援センター
相談支援部門 アクセシビリティ支援室

mail : campuslifekenkou-ac@office.osaka-u.ac.jp

tel : 06-6850-6107